

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 2 8	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Hippocampal volume deficits in alcoholic Korsakoff's syndrome. アルコール性コルサコフ症候群における海馬の縮小	
執筆者	
Sullivan EV, Marsh L.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Neurology. 2003 Dec 23;61(12):1716-9.	
キーワード	
アルコール性コルサコフ症候群、記憶喪失、海馬の縮小	
要 旨	
<p>コルサコフ症候群 (KS) の特徴は事実や出来事が思い出せなくなる記憶喪失にある。酸欠、ヘルペス脳炎、脳卒中、外科的手術を原因とする非アルコール性の記憶喪失の研究から、これらの記憶喪失は海馬のダメージによるものであるということが明らかにされている。アルコール性 KS における記憶喪失の神経的な素因はまだ明らかとなっていない。検死や in vivo のアルコール性 KS の研究から、視床と間脳のダメージの関連が示唆されており、海馬の関連性が軽視されているが、今回、アルコール性 KS の記憶喪失障害が間脳だけでなく、海馬によるものかどうか調べた。</p> <p>5 人のコルサコフ症候群患者、海馬の萎縮が見られる 20 人のアルツハイマー病患者(AD)と 36 人の健常者を用いて記憶喪失と海馬の関連の解析を行なった。海馬と脳構造 (側頭皮質、側脳室、下角、第三脳室) を比較するために定量的 MRI を用いた。健常人に比べ、KS と AD グループで両側の海馬の顕著な萎縮が見られた。両方の患者のグループで側頭葉皮質灰白質、下角、側脳室、第三脳室の広範囲に渡って明らかな容積の異常が認められた。KS での陳述記憶試験ではこれらの広範囲にわたる容積の異常ではなく、海馬の容積の異常と特異的な関連が見い出された。以上のことから、コルサコフ症候群に記憶喪失障害は海馬や間脳の異常と関係があることが示唆された。</p>	